

市制施行5周年記念式典市長式辞

本日ここに、亀山市市制施行5周年記念式典を挙行いたしましたところ、ご来賓の皆様をはじめ、多数の市民の皆様のご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

亀山市は、平成17年1月11日、旧亀山市と旧関町の合併により誕生し、大いなる希望を胸に、新たな歴史を刻み始めました。

本日ここに、記念すべき5周年の節目を迎えることができましたことは、ご臨席の皆様をはじめ、市民の皆様方の不断の努力の賜物であると、心から敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

さて、激動する時代の変革期にあって、私たちは、先人から受け継いだ恵まれた地域資源に磨きをかけ、この5年間の力強い足跡と地域の絆を礎に、未来への躍動を創りださなくてはなりません。

国と地方の仕組みが大きく変わろうとする今日、地方自治体は自律した創意工夫と責任を持ち、その分権自治の実践の中で、自らの地域を自らの手で創りあげることが求められております。市民の皆さんに協働いただいた、この5年間の営みは、地域主権への確かな息吹であったと確信するものであります。

今、この5年を振り返りますと、旧亀山市と旧関町は、深い交流の歴史を有していましたが、合併協議への真摯な議論、それを契機とした第一次総合計画の策定など、一体感の醸成が図られてまいりました。この間、その先頭に立たれ、多大なるご尽力を賜りました、前亀山市長・田中亮太様、前関町長・清水孝哉様におかれましては、衷心より敬意と感謝を申し上げます。

また、地域社会におきましても、亀山商工会議所と関町商工会との合併をはじめ、自治会連合会などの各種団体の合併が速やかに行われ、それらの活動に厚み加わり、一層活発になるなど、新しい亀山市は、市民活動や地域活動の元気を生み出しつつあります。

一方、平成17年度には、液晶産業集積の展開も相まって、市の財政構造の充実へとつながり、地方交付税の不交付団体となり今日に至っております。また、平成20年2月には、念願でありました人口5万人を達成するとともに、待望の新名神高速道路の亀山くさつたなかみ一草津田上間が開通するなど、誠に喜ばしいことであったと存じます。

そして、政策的にも市独自の施策展開を行い、全国的な先進事例と評された、子ども総合支援室の設置、公共施設ならびに民間住宅の耐震補強の支援制度の創設、市民協働センター「みらい」の整備、人に優しい亀山市斎場や市立西小学校の改築など、市民福

祉の向上に努めてまいりました。

さらに、平成21年1月、亀山市歴史的風致維持向上計画が、国の歴史まちづくり法の第1号認定を受けましたことは、記憶に新しいところであります。

こうした新市の着実な歩みのなか、昨年2月私は市長に就任し、市政の重責を担わせていただくこととなり、現在まで、中学校卒業までの医療費無料化、地域医療再生への取り組みなど、暮らしの質を高めるための施策を展開いたしてまいりました。

一方、一昨年秋の世界的な金融危機以来、社会経済ならびに雇用をはじめとする市民生活は、依然厳しい流れのなかにございます。ここ数年堅調でありました亀山市の税財政も既に潮目が変わり、行政経営の転換点に差し掛かっています。

この数年の躍動は、短期的な出来事に終わるのか、それとも、将来世代への継承をも可能とする、持続可能な地域経営・自治体経営へと転換することができるのか、亀山市の真価が問われている局面にあると考えます。

このような環境変化の時だからこそ、市民の皆様との協働を一層強め、亀山市の地域力と魅力を新しい発想とスピード・バランスをもって切り拓いてまいりたいと決意を新たにします。

本日、合併を通じて、市政進展のためにご貢献いただきました皆様、そして、地域における市民・団体の一体感の醸成にご尽力をいただきました皆様方のご労苦に対し、深甚なる感謝の意を表したいと存じます。

また、幼少の頃から旧制中学校ご卒業までの間を亀山でお過ごしになられ、我が国彫刻界の第一人者としてご活躍され、先に文化勲章をご受章されました中村晋也さんに、新亀山市となって初めての名誉市民としての称号をお贈りさせていただき、市民の皆様とともに我がまちの誇りとして顕彰いたしたいと存じます。

本日の式典が、今後も亀山市が輝かしい歴史を刻み続けるため、豊かな自然と固有の歴史文化、恵まれた交通拠点性と多様な産業などの地域資源、そして、人と人の信頼の絆に磨きをかけ、更なる飛躍への心あわせの機会となりますことを強く願うものであります。

また、新しい時代にふさわしい自治体経営を行い、近隣4市との政策連携を深め、市民の皆様が真の暮らしの豊かさを実感できる「小さくともキラリと輝く街・新生亀山」の創造に向け、全力で取り組んでまいりますことをここにお誓い申し上げます。

むすびに、本日ご臨席を賜りましたご来賓ならびに市民の皆様方には、今後ともよろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の益々のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、式辞といたします。